

平成 22 年 5 月 17 日現在

研究種目：基盤研究 (B)
研究期間：2007～2010
課題番号：19330201
研究課題名 (和文) 英国市民教育の批判的摂取に基づく小中校一貫シティズンシップ教育
カリキュラム開発
研究課題名 (英文) Curriculum Development of Citizenship Education in the Schools -Based
on the Critical Intake of the Citizenship Education in England-
研究代表者
水山 光春 (MIZUYAMA MITSUHARU)
京都教育大学・教育学部・教授
研究者番号：80303923

研究代表者の専門分野： 社会科学
科研費の分科・細目： 教育学・教科教育学
キーワード： 市民性教育, シティズンシップ, カリキュラム開発, イギリス

1. 研究計画の概要

本研究では、変質する 21 世紀を担う市民の育成をめざす教育のあり方を、シティズンシップ教育の視点から探るために、大きく次の2つを行う。

- (1) 連合王国 (以下、英国と略す) の市民性教育 (シティズンシップ教育) の現状、とりわけカリキュラム開発の現状について調査し、その特質を明らかにする。
- (2) (1)の批判的な摂取を通して、我が国における市民性教育活性化のための小・中学校、高等学校を一貫するカリキュラムモデルを作成する。

上記の目的を達成するために、具体的に次の手順で研究を進める。

- ① 学術文献や既存教材の分析を中心として、カリキュラム開発のための概念フレームワークを作成する。
- ② 英国におけるシティズンシップ教育 (以下、「CE」と略す場合がある) の現状、特にカリキュラム開発とその評価の現状について、学校現場や政府関係教育機関のみ

ならず、ボランティア教育、グローバル教育等に関する民間団体/NGO をも含めて幅広く調査・検討し、その特徴を明らかにする。

- ③ 研究代表者ならびに連携研究者がこれまで検討を進めてきた新しい CE の内容 (環境、公共性、国際理解、メディア、キャリア) をさらに発展させ、内容を体系化するとともに、小・中・高等学校教員の協力を得て試行する。
- ④ 我が国との比較を視点とした②の批判的な摂取を通して、①の概念フレームワークや、③の CE の内容を再検討するとともに、CE の体系化を行い、小中高一貫シティズンシップ教育カリキュラムモデルを作成する。

2. 研究の進捗状況

これまでの3年間の研究を通して、次のことを行った。

- (1) CE の特徴をわかりやすく示す4つの軸を設定し、それらの軸に基づいて、概念フレー

ムワークを「シティズンシップの性格」と「シティズンシップ教育の構造」の2つの側面から構成した。

(2) 英国の現地調査を通して次のことを行った。

① 英国教育水準局，ヨーク市教育当局を訪問し，CEの全国的な展開状況や担当教員の養成状況について聞き取り調査を行った。

② ミドルセックス大学，バーミンガム大学，ヨーク大学等を訪問し，CEの内容やカリキュラムの構成，および評価手法について調査した。

③ 3つの小学校と6つの中等学校におけるCEの教授・学習の現状，ならびにオックスファム(Oxfam)やコミュニティ・サービス・ボランティアーズ(CSV)といった英国を代表するCEのNGOによるカリキュラム開発と実践の現状を視察した。

④ ヨーク大学でのシティズンシップ教育セミナーにおいて，日本のCEの現状について発表・報告するとともに，日英のCEの進め方の違いについて，英国現地調査を踏まえて英国の研究者と協議した。

(3) CEの内容の体系化に関して以下のことを行った，

① (1)の概念フレームワークに基づいてどのようなカリキュラムが描けるかを，環境，メディア，公共性，キャリア，国際理解の5つの領域から具体的に検討し，その成果の一部を究「社会科教育研究」等の学会誌等に発表した。

② 日英の5つの学校(英国2校，日本3校)で，同一のシティズンシップ教材を扱った実験授業を実施し，生徒・教師(指導者)・研究者の3つのレベルで，教材の有効性と教授・学習のプロセスを，英国側研究者を交えて比較・検討した。

③ 英国からCEの研究者を招き，日本側研究

者を交えて東京と京都でセミナー・シンポジウムを開催し，CEカリキュラム開発の課題について検討した。

3. 現在までの達成度

自己評価の区分

②「おおむね順調に進展している」

その理由

「1. 研究計画の概要」に記した4つの具体的な手順(①～④)と，「2. 研究の進捗状況」を比較するに，「1」の①はほぼ達成し，②③はおおむね達成し，④はすでにその端緒についていると判断される。

4. 今後の研究の推進方策

本研究の遂行において特に問題は見あたらないので，研究計画は変更せず，当初の予定通り研究を進める。

5. 代表的な研究成果

〔雑誌論文〕(計3件)

- ① 水山光春，日本におけるシティズンシップ教育の動向と課題，京都教育大学教育実践研究紀要，第10号，2010，pp.22-33，査読無。
- ② 吉田正生，シティズンシップ「メディア単元」の事例研究，社会科教育研究，NO.108，2009，pp.4-18，査読有。
- ③ 水山光春，政治的リテラシーを育成する社会科，社会科教育研究，NO.106，2009，pp.1-13，査読有。

〔学会発表〕(計2件)

- ① Mitsuharu Mizuyama，Current Stream of Citizenship Education in Japan，The 5th International Conference on Citizenship and Teacher Education，Jun.24，2009，Hong Kong Institute of Education。
- ② 水山光春，英国シティズンシップ教育から見た市民教育の可能性，日本公民教育学会(課題研究)，2008年6月21日，大分大学。

〔図書〕(計1件)

- ① 杉本厚夫・高乗秀明・水山光春，教育の3C時代(イギリスに学ぶ教養，キャリア，シティズンシップ教育)，世界思想社，2008，232頁(pp.152-232)